

論文審査の結果の要旨

氏名：山 岸 俊 介

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：ラジオ波焼灼療法後の再発肝細胞癌に対する肝切除の検討

審査委員：（主 査） 教授 増 田 し の ぶ

（副 査） 教授 森 山 光 彦 教授 岡 田 真 広

教授 越 永 従 道

山岸俊介氏は、肝癌局所療法の一つである radiofrequency ablation therapy (RFA) 施行後、再発した肝細胞癌に対する肝切除の妥当性について検討した。まず、RFA 後の再発肝切除群 (n=54) と、肝切除後の再発肝切除群 (n=266) について比較検討し、さらに、年齢、性別、ウイルス性肝炎、アルコール依存症、糖尿病、食道静脈瘤、Child-Pugh 分類、インドシアニングリーン 15 分停滞率、術前腫瘍の状態、腫瘍マーカーを含む患者背景、肝機能、腫瘍条件を調整する傾向スコアマッチング群 (n=54) とを比較検討した。

RFA 後再発肝切除群は、傾向スコアマッチング後の肝切除後再発肝切除群に比較して、有意に系統的切除 ($p=0.036$)、拡大切除 ($p=0.032$)、腫瘍露出症例が多く ($p=0.013$)、全生存期間が短かった(中央値 4.4 年, 5.6 年, $p=0.023$, 5 年生存率 41.8%, 63.2%)。一方、術後合併症などの短期の外科治療成績については、両者に差異は認められなかった。検討症例には初回 RFA 治療を他院で行われ当院にて再発治療を行った症例が多数含まれており、初回 RFA 治療情報の詳細は不明である。しかしながら、RFA 後再発肝切除群に有意に拡大切除症例などが多いことから、RFA 治療により腫瘍境界が不明瞭であるなど、より難易度の高い再発肝切除症例が含まれていた可能性がある。にもかかわらず術後合併症などに差異が認められなかったことから、RFA 後再発肝切除は安全に行うことができる、といえよう。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるのに値するものと認める。

以 上

令和 2 年 1 0 月 1 4 日